

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 学部の理念・目的は適切に設定されているか</b>						
a ◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】	「国際日本学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年6月作成)において、「1 理念・目的」を掲載している。 また、学則別表9に「人材養成その他の教育研究上の目的」を定めている。					
<b>(2) 学部の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか</b>						
a ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること。 【約150字】	「国際日本学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」は、「1 理念・目的」を含め、教授会で承認しており、本学部教職員に周知されている。教職員に対してはさらに、執行部が作成した「国際日本学部の2015年度の総括と2016年度の展開」が教授会で配布され、その理念・目的について周知している。 学生に対しては学部便覧を通じて周知している。あわせて新入生に対しては入学時の「新入生総合ガイダンス」内でパワーポイントを使用して教務主任からわかりやすく紹介している。 学則別表9「人材養成その他の教育研究上の目的」は、明治大学ホームページに公開しており、受験生を含む、社会一般に公表している。なお、本学部は多数の留学生を受け入れており多言語版のホームページでも同様に理念・目的を公表している。					
b ●人材養成の目的の認知状況を確認していること。 【約200字】	2015年度に実施した「大学における学びに関するアンケート」によると、国際日本学部の「人材養成その他の教育研究上の目的」の認知度は67.5%であり、全学平均46.2%よりも高い比率となっている。 また、方針を知った資料として、「Webサイト」が26.5%と、設問項目の中で一番高かった。	全学の認知度が46.2%であり、他学部と比べて認知度は高い。 入試広報に加え、入学後のガイダンスや初年次に行う国際日本学部講座により、国際日本学に関する共通認識及び本学部のポリシーの意識付に効果が表れている。		今後も継続して周知を図っていく。		

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準 1 理念・目的

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
		(中長期的対応) H列にあれば記述			
(3) 学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか					
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	理念・目的の適切性の検証について、学部教授会、教授会員により行われる教授会意見交換会、将来構想・カリキュラム検討委員会などの議論を踏まえ、毎年度実施されている「教育・研究に関する年度計画書」の作成時において、「学部執行部」が長期・中期計画に記載される「理念・目的」の原案をまとめる際に検証し、「教授会」で審議承認する手続きとなっている。2016年度は6月17日教授会で承認され決定した。 また、執行部が作成した「国際日本学部の2015年度の総括と2016年度の展開」に基づき、学部の理念・目的に沿った計画がなされているか教授会で確認・議論をしている。 学則別表9「人材養成その他の教育研究上の目的」を変更する際には、教授会審議を経て、全学の教務部委員会、学部長会、理事会の審議承認を経て改正することとなっている。2016年度は改正していない。	理念・目的とそれに則った具体的な施策については、年度計画書のための議論だけでなく、学部長(執行部)による詳細な学部の前年度の総括と今年度の展開案が教授会に示され、議論されて全員が確認している。 さまざまな発展的な展開が続く本学部では、教授会員の理解が不可欠であり、このような明確な議論のプロセスが必要であり、それが効果的に機能している。	2016年度に提示した「総括と展開」について、今後も同様の方法で継続的に教授会にて議論・確認していく。		

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 学部として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか</b>					
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	本学部の求める教員像は、「2017年度 教育・研究に関する年度計画書」(2016年6月作成)「3教員・教員組織」において掲載している。 本学部の教員組織の編制方針は、「2017年度 教育・研究に関する年度計画書」(2016年6月作成)「3教員・教員組織」において掲載している。 本学部の「求める教員像」及び「教員組織の編制方針」を明記した「教育・研究に関する長中期計画書」を教授会で承認することにより、本学部教職員で共有している。				
b ◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	専任教員の募集・任用・昇格に関しては、明治大学教員任用規程等の大学の定める規定に則り、学部で定めた「国際日本学部教員等任用審査内規」により明確に規定している。 任用時に求める能力は内規「第6条」に、昇格については内規「第11条」に規定している。				
c ◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	教育研究にかかわる事項は学部長が議長を務める教授会において審議しており、最終的な責任は教授会及びその責任者である学部長が負う体制になっている。教授会の下には、将来構想・カリキュラム検討委員会、入試委員会、国際交流委員会等の9つの学部内委員会を設置し、当該委員会で議論した内容を学部長、教務主任等の役職者による執行部会議で検討、各種調整のうえ、最終的に議決機関である教授会において審議承認する態勢をとっている。 任期付教員については、特色ある授業科目を担当する教員、英語授業科目を展開する外国人教員(週1~2回のオフィスアワーも担当)、英語で講義をおこなう教員等を専任教員として、最新の教育研究事情や実務的な講義をする教員を客員教授、特別招聘教授として任用している。				

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(2) 学部の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか</b>						
<b>教員の編制方針に沿った教員組織の整備</b>						
a ◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令（大学設置基準等）によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること（設置基準第7条第3項） 【約400字】 ※ 現在数とは、2017年5月1日現在の数値です。	大学設置基準上の必要教員数が18名であるのに対し、2017年5月1日現在の専任教員数（特任含む）は50名であり基準を充足している。		大学設置基準上の数値は充足しているように見えるが、集計のルール上任期付教員もその数値に含まれており、本来の専任教員に絞った収容定員に基づくST比は28名ではなく34.8名となる。		英語の少人数教育に力を入れ、そしてイングリッシュ・トラックを設置している本学部としては、この数値をより低くしていくことが重要であると考えている。	
	大学設置基準上の必要教授数が9名であるのに対し、2017年5月1日現在の専任教授数（特任含む）は26名であり基準を充足している。					
	専任教員一人当たりの学生数で示せば、収容定員(1,400名)ベースで28名、学生現員（1738名）ベースで34.8名である。					

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
b ◎『教員組織の編制方針』と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】	2017年度における担当授業時間数の平均は、資格別では教授11.5時間、准教授12.0時間、講師13.9時間となっており、研究時間の確保に配慮している。		昨年度は専任教員の担当科目比率が50.5%であり、今年度はほぼ近い数値となっている。 英語必修科目を担当していた特任教員数が減少したこと、イングリッシュ・トラック学生用カリキュラムにおいて、日本語語学科目を増強するなどの充実を図るためによる数値である。		本学部の専任教員の担当科目比率（専兼比率）を検証し、カリキュラム上必要な数値を算出した上で、当該比率の改善を図る。	イングリッシュ・トラック学生用カリキュラムの充実と専兼比率改善ため専任教員の採用を大学に求めている。
	開設科目総数に占める専任教員の担当科目比率（専兼比率）は51.4%となっている。 内訳としては、「国際日本学講座」「ICTベーシック」「日本語表現」の必修科目については、45.3%を専任教員が担当、「英語科目」「日本語科目」の必修科目については、22.8%を専任教員が担当、自由選択科目については、71.9%を専任教員が担当している。					
	国際人の育成を掲げ、国際・日本をキーワードに英語教育・日本語教育・人文科学系・社会科学系の学際的な多様な科目を提供するために特任教員や客員教員を積極的に任用しており、英語教育の特任教員7名、日本語教育の特任教員1名、人文社会科学系の特任教員4名、情報系特任教員1名、英語で行われる講義を担当する客員教員1名が授業を担当している。					

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>教員組織を検証する仕組みの整備</b>						
c ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】	教員組織の検証プロセスについては、「将来構想・カリキュラム委員会」の審議を踏まえ、「学部執行部」で、毎年度6月に「教育・研究に関する年度計画書」において教員・教育組織に関する長中期計画を策定し、学部教授会で承認している。 この長中期計画は、翌年1月に学長から示される「教員任用計画の基本方針」に従い、学部教授会において次年度の「学部教員任用計画」として具体化される。「教育・研究に関する年度計画書」の長中期計画の策定にあたっては、自己点検・評価結果を参考としながら、教員・教育組織を検証し、その編制方針・任用計画の見直しを行い、学部教授会において審議・了承された後、学長に提出している。 「学部教員任用計画」の策定にあたっては、将来構想・カリキュラム委員会、人事委員会、執行部会議において、学部の将来構想や必要な授業科目の検証とあわせて、補充・増員すべき教員の主要科目や資格を検証し、教員教育組織の検証を行って計画を立案している。 2016年度は、英語教育の特任教員1名の任期満了に伴い、英語教育の質の維持及び向上のために特任教員1名の採用を行った。 この他、イングリッシュ・トラック学生等へのサポート体制の充実が課題としてあげられたため、イングリッシュ・トラック学生をサポートできる日本語教員及び海外インターンシップの事前事後プログラムを担う人材を視野に入れた増員を人事委員会で決定し、教員任用計画を作成した。					
<b>(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか</b>						
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	教員の任用・昇格の基準・手続等に関しては、「明治大学教員任用規程」、「学部長会における教員の任用及び昇格審査基準」、「国際日本学部教員等任用審査内規」により明示し、厳格に運用をしている。 2016年度は、特任教員1名（講師1名）、客員教員1名（講師1名）を任用した。あわせて2名の昇格（准教授から教授へ、講師から准教授へそれぞれ1名ずつ）ならびに、客員教員（教授1名）及び特任教員（准教授1名）の任用更新を行った。					

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか</b>						
<b>教員の教育研究活動等の評価の実施</b>						
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	<p>研究活動の業績評価について、学部の紀要である「国際日本学研究」は、査読により紀要・学生論集編集委員会で掲載を許可された論文を掲載し、明治大学学術成果リポジトリへの登録を原則的におこなっている。</p> <p>「国際日本学研究」は、学部で定められた「『明治大学国際日本学研究』刊行に関する内規」に基づき作成要領を公開し、その掲載について公平に取り扱われている。なお、2016年度の紀要は、計14本の論文等を掲載した。</p> <p>総合的な業績評価として、執筆活動や学会活動などは個人業績として毎年公表され、Oh-o!Meijiシステムで教員データベース上に更新しながら公開している。科研費などの研究費取得などについては、学部教授会でその実績が紹介され、外部にも公表されている。</p> <p>紀要・学生論集編集委員会を改組し、2017年度より紀要編集委員会と学生論集委員会に分け、前者を紀要の編集発行に特化した委員会とした。</p> <p>科学研究費に関して、過去3カ年の採択率は47.4%であり、2016年度新規採択は3件である。同補助金額は2016年度に17,550千円であり、前年度から減額している。</p>	<p>教員の研究活動について、学部紀要の刊行に関する内規を定める等、学部紀要への掲載体制が整えられており、</p> <p>査読基準においては「研究論文」、「研究ノート」の位置づけ・定義を明確にし、査読をブラインド制とする等、紀要の質の維持・適切な評価方法の構築に努めている。</p>		<p>この掲載体制を維持し、質の良い紀要が発刊できるようにする。</p>		
<b>教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性</b>						
b ●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 ※ 社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動を指します。 ※『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」（3）教育方法で評価する。 【600～800字】	<p>○「国際日本学部 教員フォーラム」、3回開催 (2016年6月17日, 2017年2月24日, 2017年5月26日) 各回15～20名程度出席、国際日本学部教員による自身の教育研究内容の報告と討論 2016年度からは総合数理学部の教員も交えて開催している。</p> <p>2017年5月26日開催回報告テーマ 【国際日本学部】</p> <p>中野香織 特任教授（服飾文化史） 小山登美夫 特任教授（アートビジネス） 【総合数理学部】</p> <p>松山直樹 教授（統計学） 宮下芳明 教授（ヒューマンコンピューターインターアクション）</p> <p>○「研究倫理理解、科研費の申請・外部資金の活用理解」 教授会での説明 29名出席、</p> <p>○「2017年度新授業時間割導入に伴うシラバス作成について」 2016年11月18日教授会の一部の時間をFDとして開催</p> <p>○国際連携主催「大学教員のための海外研修」1名出席 ○新任教員向け「研究費の申請方法の研修会」対象者1名</p>	<p>教員フォーラムにおいて、毎回2名から3名の教員が自身の教育研究を発表している。特に、アクティブラーニングを中心に、授業実践を教員間で共有することで、教員の授業改善の意欲を高め、教員の資質向上につながっている。</p> <p>また、総合数理学部の教員と共同開催することにより、教育・研究内容の相互理解を試みることで、教育研究における新たな文理融合の方策を発見・模索する機会を得ている。</p> <p>同フォーラムを通して総合数理学部設置科目の中から本学部学生に推奨できる授業科目の具体的な提案を受け等、学部間の連携強化に繋がる効果が表れている。</p>		<p>学部として、アクティブラーニングをカリキュラムにおいて明確に位置づけ、学部ウェブサイトなどを利用して、対外的に発信していくことを検討する。</p> <p>また、教員フォーラムの開催日時をできるだけ早めに定め、より多くの教員が参加できるよう、呼びかけに力を入れる。</p>		

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準 4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか</b>						
a ◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】	教育目標として学則別表9に「人材養成その他の教育研究上の目的」を定めている。 また、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件を明確にした「学位授与方針」（DP）を、目指すべき人材像、具体的到達目標として教授会において定めている。					
<b>(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか</b>						
a ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】	学位授与方針に示した修得すべき成果を達成するため、教育課程の編成理念、教育課程の編成方針を明らかにした「教育課程編成・実施方針」（CP）を教授会において定めている。					



# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準 4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が, 大学構成員(教職員及び学生等)に周知され, 社会に公表されているか</b>						
a ◎公的な刊行物, WEBサイト等によって, 教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	教職員については学部便覧(9頁)で公開し, 学生についても学部便覧(9頁)で公開している。新生には, 入学時の「新生生総合ガイダンス」内でパワーポイントを使用して教務主任から紹介している。 社会一般への公表は, 学部ホームページにおいてDP, CPを掲載している。					
b ●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の認知状況を確認していること。 【約200字】	「明治大学における学びに関するアンケート」では, DP及びCPの認知度は34.9%であり, 全学平均と比べると高い比率ではあるが, 数値としては低い結果となっており, 認知度を高めるための諸策が必要である。前回は2015年度に調査を行った。今回は2017年度に全学的に実施の予定である。 また, これらを知る機会としては, Webサイトが26.5%と, 設問項目の中で一番高かった。		DP及びCPの認知度については全学を通じて低い結果となっている。		新生ガイダンス内でDP及びCPについてより詳しく説明をして認知度を上げていく。	DP及びCPの認知度を2019年度調査には60%にすることを目標とする。
<b>(4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか</b>						
a ●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり, 責任主体・組織, 権限, 手続を明確にしているか。また, その検証プロセスを適切に機能させ, 改善につなげているか。 【約400字】	DP及びCPとも, 学則別表改正などのカリキュラム検討時(11~1月頃)に, 学部内の「将来構想・カリキュラム検討委員会」で検証の後, 執行部会議, 教授会において, 審議承認を行っている。 2016年度は, 学部内「将来構想・カリキュラム検討委員会」で検証した結果, 現状どおりで問題ないことが確認され, 執行部会議・教授会(2016年11月18日開催)でこれを承認した。 また, 国際日本学部では, 卒業予定者を対象としたアンケートを実施しており, その中で国際日本学部の理念・目的の達成度について調査している。2016年度の同アンケートではDPで示している5項目の達成度を調査した結果, 平均80.8%の学生から肯定的な意見を得た。	DPおよびCPの適切性に関して, 委員会・教授会の検証責任・手続が明確にされており, また実際の検証・承認を通じて改善が行われており, 定期的な検証が執行部・教授会を通じて実施されている。 また, 卒業予定者を対象としたアンケートにおいて学部理念・目的の達成度は高く評価されていることから, 検証・改善は適切に行われていると評価できる。		今年度卒業する予定の新カリキュラム適用学生へのアンケート結果を蓄積し, 今後のカリキュラム方針検討のための資料とする。		

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか</b>					
<b>必要な授業科目の開設状況</b>					
a ◎CPに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【300字程度】	<p>本学部は、CPに基づき、少人数クラスでの実践的な英語科目・外国人留学生向け日本語科目と国際日本学に関する専門科目を設置している。専門科目は「ポップカルチャー研究領域」「視覚文化研究領域」「社会システム・メディア研究領域」「国際関係・文化交流研究領域」「国際文化・思想研究領域」「日本文化・思想研究領域」「日本語研究領域」「英語研究領域」の8つに区分しており、国際日本学を学ぶ上で有機的に関連している。これらの科目群を中心に授業科目を設置し、体系的に編成している。</p> <p>また、本学部では英語による授業のみで学位が取得できるコースのイングリッシュ・トラックを設置している。イングリッシュ・トラックは2011年度にスタートし外国人留学生のみ受け入れていたが、2017年4月からは日本国籍の学生も受け入れている。</p> <p>本学部の2017年度における開設講義科目数は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目：206</li> <li>・教養科目：88               <ul style="list-style-type: none"> <li>内：外国語科目：57</li> <li>日本語科目：26</li> </ul> </li> </ul>				
b ●CPに基づき、必修科目を開設していること。 【200字～400字程度】	<p>本学部では以下のとおり必修科目を設置している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会で活躍できる英語力修得のために外国語科目22単位(外国人留学生は14単位を選択必修科目)を1・2年次に設置。</li> <li>・留学生のみ対象として、日本の文化や社会について正確な知識と深い理解を得るために「上級日本語」8単位を1年次に設置。</li> <li>・日本文化の基礎となる日本語の基礎力を養うために「日本語表現(文章表現)」「日本語表現(口頭表現)」を1年次に設置。</li> <li>・本学部の根幹となる国際日本学の理解を深めるために「国際日本学講座」を1年次に設置。</li> <li>・大学における学びの基礎力養成のために「ICTベーシックI」を1年次に設置。</li> </ul>				
c ◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること。 【200字～400字程度】	<p>全開講コマ数875科目のうち156科目(英語で講義を行う科目29科目を含む)は「総合教育科目」である。また、外国語科目以外の必修科目は、総合教育科目における4科目(8単位)（「国際日本学講座」「日本語表現(口頭表現)」「日本語表現(文章表現)」「ICTベーシックI」)である。</p> <p>また、学部の特色ある教養科目として、豊かな人間性を涵養する教養的教育科目としての「総合教育科目」群に、専門分野を超えて求められる基礎知識や思考方法・発表技法等について学ぶ「教養講座」を設置している。</p>				

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など）</b>						
d ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。（学生の順次的・体系的な履修への配慮） 【約400字】	学生への順次的・体系的な履修への配慮として、本学部では授業科目の体系が大学ホームページ、学部ガイドに示されている。また便覧に領域ごとの授業科目と配当年次を記載し、順次的履修に配慮している。 本学部では多くの科目が学生の自由選択に委ねられているが、基礎的・概要的な1・2年次配当科目と専門性の高い3・4年次配当科目というように、履修年次を区別することによって、学生が自らの関心に沿って、段階的に勉学を進めることができるよう工夫されている。3・4年次に、より専門性の高い教育研究を行う場としての「演習」を置くことによって、学生が教員と双方向的関係を持ちつつ自らの関心を深め、自主的に勉学・研究を進めることができるように配慮している。					
<b>教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性</b>						
e ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	学部に「将来構想・カリキュラム検討委員会」を設置している。検証プロセスとしては、自己点検・評価の結果、社会情勢や学生の履修状況などを参考に、学部長からの検討依頼を受けて「将来構想・カリキュラム検討委員会」で審議し、その審議結果を執行部会議、教授会で審議している。 2016年度には委員会を6回開催して、定期的なカリキュラムの見直し・検討を行った。主に以下を検討のうえ、執行部会議、教授会で承認した。 ・2017年度新時間割導入に伴う科目名・配当年次変更 ・カリキュラム・ディプロマポリシーの見直し ・2017年度イングリッシュ・トラック入学者のカリキュラム改正 ・2017年度「社会連携科目」の新規設置 ・将来の教員任用計画を見据えた2018年度新規設置科目の策定 なお、「大学における学びに関するアンケート」にて、本学部の授業科目の体系（カリキュラム）に対する満足度について調査した結果、74.7%から肯定的な意見を得ることができた。	カリキュラムの見直しについては、社会情勢などの参考情報を基に、学部長からの検討依頼を受けて「将来構想・カリキュラム検討委員会」で必ず精査され、その結果を教授会で審議しており、明確なプロセスにより機能している。 イングリッシュ・トラックに関する課題は、その特殊事情に鑑み「イングリッシュ・トラック運営委員会」を設置し、同トラックのカリキュラム上の課題を検討し、「将来構想・カリキュラム検討委員会」へ改善案を提案するプロセスを加えることで検証の有効性を補完している。		今後も同様のプロセスにて検証・改善を繰り返していく。		

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか</b>						
<b>特色ある教育プログラムの内容とその効果（当該学部等固有のプログラムやGP採択事業など）</b>						
a ●学部の特色、長所となるプログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】	<p>特色ある教育プログラムとして、英語による授業のみの履修で学位を取得できるイングリッシュ・トラックを設置し、4月期と9月期に学生を受け入れている。2017年4月現在、同トラックの在籍者は78名で、国籍も23か国と多岐にわたる。これに伴い、日本語未習のイングリッシュ・トラック所属学生が日本語を勉強しやすいように、初級レベルから上級レベルまできめ細かく対応できるようなカリキュラムを設定している。</p> <p>「英語による授業科目」については、開講されている科目のうち96科目が英語でも開講されており、本学部の一般学生（＝日本語トラックの学生）には卒業要件として12単位分の履修が義務付けられている。この「英語による授業科目」は、前述のイングリッシュ・トラック所属学生も受講しているため、一般学生にとっては授業内で留学生と英語でディスカッションやグループワークを行うことができ、英語力の向上及び異文化理解の促進という教育効果が見込まれる。</p>	<p>2016年度からスタートした「日本語教育人材育成プログラム」は、本学部の特色および長所が色濃く反映されたものである。</p> <p>同プログラム必修科目の履修者が増加していることから、学生からのニーズが高いプログラムであることが確認できた。</p>		<p>特色あるプログラムを選定のうえ、国際日本学研究科と連携し、5年修士が取得できるプログラムを検討する。</p>		
	<p>また、国際日本学部開設科目においては「リクエスト講義」を行っている。これは、当該科目の講義内容に直接関係ある学外の専門家または実務家を招聘し、講義の一部を担当してもらい、授業の効果を上げることを目的としたものであり、2016年度は20コマの講義を実施した。その分野で最新の知識と経験を有する講師ばかりを招聘しており、学生にとっても貴重な内容の講義を提供できている。</p> <p>さらに、2016年度からは「日本語教育人材育成プログラム」を設置した。日本語と日本語教育に関する専門性と同時に、異文化交流や日本文化、英語教育についての幅広い知識も併せ持った日本語教育人材を養成することを目的としたプログラムである。2016年度からスタートしたプログラムであるが、学生からの反響は大きい。例えば、プログラム必修科目の1つとして今年から指定された「日本語教育学（語彙）A」の履修者数が、2015年度は63名だったが、2016年度は103名となった。また、2016年度には2名の同プログラム修了者を輩出している。</p>					

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>学部間等における国際的な教育交流の内容とその効果 (学部間協定, 短期海外交流など)</b>						
<b>b</b> ●学部の特色、長所となる国際化プログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】	①「アカデミック留学・インターンシッププログラム」 ※ 2年次秋学期から参加可能で、留学中に修得した単位は、24単位を上限に本学部の修得単位として認定される。 <2017年度派遣予定>126名 (応募者数全体の84.0%が参加予定) ◆アメリカ オレゴン大学8名 ニューヨーク州立大学ニューパルツ校1名 アラバマ大学1名 インディアナ大学・パーデュー大学インディアナポリス校4名 フロリダ州立大学 (留学とウォルトディズニールワールドでのインターンシップを組み合わせたプログラム) 48名 ハワイ大学 (インターンシップを組み合わせた約8カ月間のプログラム) 6名 ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ10名 ビュートカレッジ4名, フットヒルカレッジ8名 エドモンズコミュニティカレッジ8名 エベレットコミュニティカレッジ9名 グリーンリバーカレッジ3名, ピアスカレッジ2名 オーロニカレッジ5名 ◆イギリス オックスフォード大学ハートフォード・カレッジ2名 ◆スウェーデン ルンド大学7名	アカデミック留学・インターンシッププログラムの学部間協定の促進に加え、2016年度には国際ボランティアプログラム、2017年度には海外インターンシッププログラムを新規に開始し、海外派遣の機会を増強している。		さらに協定校拡充を目指し、世界的なトップ校との協定を結ぶように調査・交渉を進めていく。		
	② 学部独自の「短期語学留学」 <2017年度派遣予定>17名参加予定 ◆カナダ トロント大学17名					
	③ 学部独自のCIEE海外・国際ボランティアプログラム 2016年度派遣者 6か国, 21名 上記に加え国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部との国際ボランティアプロジェクト及び海外インターンシッププログラムへの学生派遣に関する覚書の締結 (2017年3月) を行い2017年度から実施予定である。 <2017年度派遣予定者>57名 アメリカ13名, カナダ3名, ドイツ6名, フランス1名, スペイン4名, イタリア1名, メキシコ1名, セルビア3名, エストニア1名, オーストラリア3名, ニュージーランド3名, インドネシア11名, ベトナム2名, その他調整中3名					

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育方法及び学習方法は適切か</b>					
<b>教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性</b>					
a ◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること。 【約200字】	「講義科目」として語学力を引き上げるためのコア科目となる「英語科目」「第二外国語科目」「日本語科目」、教養科目を中心とした「総合教育科目」、本学部のさまざまな研究領域を集約した「国際日本学専門科目」を設置している。なお、講義科目には英語で授業を行う科目を設置しており、学部の教育目標に則した授業を展開している。 演習については、3・4年次に履修する「演習科目」を設置している。学生それぞれが興味のある分野に関して専門性を極めることを目標として、2年間かけて同じ指導教員のもと、学生は研究に取り組む。なお、国際日本学部では「演習科目」を必修としていないが、2017年度の3年次演習入室率は92.0%であり、ほぼすべての学生のもとで演習科目の重要性が認識されていると判断できる。 実習科目として、「国内インターンシップ」「海外インターンシップ」「海外ボランティア実習」の各科目を設置している。				
<b>履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫</b>					
b ◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。(学部) 【約200字】	1年間の履修科目登録（卒業要件単位として履修する科目）の上限は、再履修科目も含め、1年次が春・秋学期とも20単位と定めている。2～4年次の履修上限単位は春・秋学期各24単位としている。 各年次の平均履修単位数は、1年次39単位、2年次40単位、3年次34単位、4年次21単位である。 4年次には、12単位以上を修得しなければならない付加条件を付けており、学部4年間を通じてバランスよく教育を行う履修要件を設定している。				

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
c ●履修指導（ガイダンス等）や学習指導（オフィスアワーなど）の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約2000字～4000字】	<p>履修指導については、年度始めの4月に学年別ガイダンスを実施する他、スポーツ入試入学生、留学生、イングリッシュ・トラック学生等を対象に、多様な入試形態に応じたガイダンスを実施しており、丁寧な指導を行っている。</p> <p>学習指導については、たとえば語学教育の基盤となる「英語科目」のライティング授業で「プロセスアプローチ」を導入している。これは、学生が最初に提出したエッセイを、教師やクラスメートのコメントに基づいて何度も書き直し、各学生がポートフォリオに自分の書いたエッセイのすべてを保管し、学習の経過を内省できるという工夫である。また、国際日本学部の専任教員は週に1時間、英語特任教員は春学期週1時間、秋学期週2時間、「オフィスアワー」を設けており、学生が自由に教員に相談できる環境を整備している。</p> <p>授業の出席等のチェックは個々の教員に委ねられており、学習ポートフォリオ等を活用した組織的な学習実態の把握は行っていない。</p> <p>なお、「明治大学における学びに関するアンケート」設問17では、ガイダンスや履修指導の満足度に関する肯定的な意見が81.9%と、全学部の中で一番高い数値であり、学生に十分満足されている。同アンケートは2015年度に調査を行った。次回は2017年度に全学的に実施の予定である。</p>	<p>全学の認知度が46.2%であり、他学部と比べて認知度は高い。</p> <p>入試広報に加え、入学後のガイダンスや初年次を行う国際日本学部講座により、国際日本学に関する共通認識及び本学部のポリシーの意識付に効果が表れている。</p>		<p>今後も同様の体制で実施していく。</p> <p>また、ガイダンス時期に学生へ提供する情報が過多にならないよう配慮されたガイダンス計画を検討していく。</p>		
<b>学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）</b>						
d ●各授業科目において、学生の主体的な学びを促す教育（授業及び授業時間外の学習）方法を採用しているか。 【約4000字】	<p>英語必修科目において、TOEFL<sup>®</sup>等の外部英語試験のスコアをもとに、3つの習熟度レベルに分けてクラス編成を行っている。授業ではペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを積極的に取り入れている。また、期末試験においては3つの習熟度レベルごとに同じ問題を使用し、同レベル内で公平に評価がされるように配慮している。</p> <p>2015年度入学生のTOEFL ITP<sup>®</sup>スコアの入学時と2年後との比較について2017年度秋学期に実施するため、検証はこれから行われる。</p> <p>その他3年次から履修できる演習（ゼミ）の中で学生の主体的な学びを促す教育が行われている。以下例として2点あげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横田ゼミが主体となり、イベント「ヒューマンライブラリー」を毎年開催している。これは、日頃偏見の目で見られやすいマイノリティの人々が自ら「本」となって、来場者（「読者」）に1対1で30分間「貸し出される」という催しである。催しを準備する学生は、「本」となる人々とのあいだで、どのように話をしてもらうかについて頻繁にやりとりをするとともに、イベント自体を円滑に運営できるように活動する。</li> <li>・山脇ゼミが主体となり、イベント「なかの多文化共生フォーラム」を開催している。今年度は東京都や中野区などの取り組みを振り返りつつ、外国人も日本人も住みやすいまちをめざすにはどうしたらよいかをテーマに、学生が主体的に行ったヒアリングや台湾での実践例の報告、東京都主催の人権フェスタで行ったプレゼンテーションの再現、中野区長とのパネル討論が行われた。</li> </ul>	<p>英語必修科目について、2016年度入学生の2年次に受験（必須）するTOEIC ITP<sup>®</sup>スコアの平均点は727点であることから、現在の教育方法が高い学習効果をあげていることが確認できた。</p>		<p>今後、2015年度以降の入学生が受験する外部英語試験の結果を蓄積・検証し、さらなる学習効果の向上を試みる。</p>		

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか</b>						
a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。 【約300字】	様式は全学部統一のものだが、シラバス作成要領については学部独自のものを作成している。 これらを全教員に配布、シラバス作成を依頼し、半期14週の枠組みで各回の講義内容を個別に記載している。 また、シラバスについては、Oh-o!Meijiシステム及びWEBサイトで閲覧可能としている。シラバス記載の全科目で学生に成績評価の基準を明示しており、成績の公平性を保つとともに、厳格公正な成績評価を行っている。 2017年度からの新授業時間割に対応するべく、学部FDでシラバス作成方法について扱い、共通認識をもった。	授業改善アンケートからも読み取れるように、83%の学生が、シラバスに示されていた学習内容と授業の内容が合致していたと感じており、シラバスに基づいて授業が展開できていることが確認できた。		シラバスと授業方法・内容の整合性については、執行部で授業改善アンケートの内容を継続的に調査・検証し、必要に応じて各教員に更なる取り組みを促す。		
b ●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】	シラバスと授業方法・内容の整合性については、毎学期に実施している授業改善アンケートの調査項目「シラバスに示されていた学習目標、内容と合致していましたか」、「指定された教科書などは授業を理解するうえで適切でしたか」の各項目を通じ、シラバスの到達目標の達成度を調査している。2016年度秋学期の集計では、前者の「思う(強)」「思う(弱)」の合計が83.1%(全学平均69.8%)、後者の「思う(強)」「思う(弱)」の合計が67.7%(全学平均54.2%)だった。					
c ●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】	シラバスの内容について精粗がないよう、「教務主任」の責任の下で事務局が点検を行い、必要に応じて担当教員に補筆の依頼を行っている。 シラバスに基づいた授業を展開するための恒常的な検証について、英語科目、日本語表現等に関しては、科目担当の専任教員・兼任教員等が合同会議を開き、授業運営及び評価方法の確認・検証と統一を図るようにしている。 「大学における学びに関するアンケート」で授業外学習時間について調査した結果、1週間の授業外学習時間を1時間以上10時間以内確保している学生の割合が本学部では65%であり、大学の平均値51.9%を上回る数値だった。					
<b>(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</b>						
a ◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約200字】	成績評価についてはGPA制度を導入しており、基準については便覧に明記している。 成績分布に関して、学部の平均GPAは2.53となっており、GPA数値の平均2.5に近いことから、各教員の成績評価がバランスよく行われていると判断できる。	本学部内の成績分布についてはバランスがとれていることが確認できた。 単位認定方法はシラバスに明示しており、それに基づき成績表がなされており適切に基準の明示がなされている。		今後も継続してデータを蓄積し、成績分布にばらつきがでないように検証していく。		



# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善（授業に関わるFD活動）に結びつけているか</b>						
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約400字】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語科目を担当する教員会議 12名 英語科目を担当する専任教員及び特任教員が、2週間に1度火曜日の3時限目に会議を持ち、授業改善のために、授業の問題点や指導方法について、話し合っている。</li> <li>○日本語表現担当者会議 9名 授業担当者が授業開始前に会議を行い、講義内容、授業運営方法、成績評価方法等について、共有・意見交換を行った。(2017年3月実施)</li> <li>○英語での専門授業教授法についての海外研修プログラム 国際連携本部主催 2017年1月実施 1名参加</li> <li>○「教員懇談会」4回開催 2016年5月13日, 2016年9月16日, 2016年9月30日, 2016年12月懇談会テーマ：国際日本学部の将来構想(領域再編) について</li> </ul>		定期的な検証は行われているが、授業アンケート実施率が依然低いため、同アンケートを活用した教育内容・方法の改善が全ての科目ではおこなえていない。		2017年度春学期は、本学部は授業アンケートの実施必須学部となっており、その実施結果を検証する。同一名称科目については、成績評価基準を統一する等公平性を担保できる運用を目指す。	執行部が策定する向上策について、年度計画に沿って実施をはかる。
b ●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	<p>全教員に1教科以上の科目において授業改善アンケートを実施することを要請し、集計結果を教員に伝達するのみでなく、事務室カウンターにおいて、学生に公表することを教授会で決定しており、学生にはOh-o! Meijiにて公表時期についてお知らせを流している。</p> <p>&lt;2016年度アンケート実績&gt; 春学期実施率30.1% (総科目数522, 実施コマ数157) 秋学期実施率24.2% (総科目数516, 実施コマ数125)</p> <p>&lt;資格別実施状況&gt; 春学期実施率 教授：48.0%, 准教授：68.8%, 講師：66.7% 秋学期実施率 教授：44.0%, 准教授：56.3%, 講師：66.7%</p>					
c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	<p>教育内容・方法等の改善を図る検証プロセスについては、「執行部」と「FD・自己点検・評価委員会」が協力して自己点検・評価をおこない、検証している。</p> <p>2016年度の実績としては、学生にとってイングリッシュ・トラックをより魅力的なものにするためにカリキュラムについて見直しを図り、2017年度から演習科目の充実計画（ゼミ開講数の増加）を策定し、教授会にて承認した。</p> <p>なお、「明治大学における学びに関するアンケート」では、授業形態・方法の満足度を調査しており、どの授業形態においても、不満を感じている学生は10%に満たない。</p>					

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか</b>						
<p>●学位授与にあたって重要な科目(基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など)の実施状況。</p> <p>●学習成果の「見える化」(アンケート、ポートフォリオ等)に留意しているか。 【約400字】</p>	<p>学位授与にあたり重視する点として、3・4年次の「演習科目」の履修、及びその成果としての「ゼミ論文」や「卒業研究」の作成が挙げられる。「演習科目」での教育研究活動の成果は4年間の学習の最終成果である。2017年度は91.6%の学生が演習科目を履修している。</p> <p>学習成果の可視化に留意した事項として、例年開催されるゼミナール協議会主催の「ゼミナール大会」がある。これは、学生が日々研究している成果を発表し、本学部教員が審査員となり評価するものである。なお、2016年度については、9ゼミナールからの発表があった。</p> <p>また、演習所属学生の研究成果を広く発表する場の提供、及び「国際日本学」の具体的な研究成果や実践的な価値を広く理解・共有することを目的として、「国際日本学部学生論集」を発行している。2016年度は6本の論文が掲載された。</p>	<p>卒業生の進路として、「製造業」「情報通信業」「卸・小売業」の割合が多いことから、本学部のディプロマポリシーでも示している目標に沿った進路へ進んでいる。</p> <p>また、実質学位授与率が92.6%であることから、達成が難しい教育目標を設定していないことが読み取れた。</p> <p>以上のことから、教育目標に沿った成果が上がっていることが確認できた。</p>		<p>今後も現状の体制を維持しつつ、卒業生予定者アンケートの結果と照らし合わせて成果を検証する。</p>		
<p>●学位授与率、修業年限内卒業率の状況</p>	<p>学位授与率は、2017年3月卒業生においては72.8%だった。ただし、表30では4年生総数(母数)に交換留学生の学生数及び9月入学に伴い2017年3月に卒業を予定していない学生計79名も含まれており、実際は92.6%であった。</p> <p>なお、修業年限内卒業率は学部全体で78.2%であった。</p>					
<p>●卒業生の進路実績と教育目標(人材像)の整合性があるか。</p>	<p>卒業生の進路実績は、就職者303名、国内外大学院への進学者9名である。</p> <p>卒業生の進路としては、「製造業」「情報通信業」「卸・小売業」「金融業、保険業」などが多くの割合を占める。特に、海外に進出している日系企業への就職、また、旅行関係、情報通信関係など、語学力や国際感覚を要する業種への就職が目立つ。学部の目指す人材育成像に合致した人材が多く輩出されていると判断される。</p>					

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p>C ●学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）を実施しているか。 【約400字～600字】</p>	<p>卒業予定者を対象としてアンケートを実施し、国際日本学部のDPで示す能力の修得状況をはじめ、留学プログラムや教育課程について幅広く調査している。 調査結果は翌年度4月の教授会で報告を行い、執行部及び学部を設置している自己点検・評価委員会においてアンケートの集計値の点検を行っている。 また、企業等の外部団体向けのアンケートや卒業生に向けたアンケートは実施していない。 本学部ホームページコンテンツ「卒業生の声」制作において本学卒業生から本学部での学生生活等のコメントを収集した結果、カリキュラムに関して肯定的なコメントが多かった。</p>	<p>全学の認知度が46.2%であり、他学部と比べて認知度は高い。 入試広報に加え、入学後のガイダンスや初年次に行う国際日本学部講座により、国際日本学に関する共通認識及び本学部のポリシーの意識付に効果が表れている。</p>		<p>2016年度卒業生から新カリキュラムが適用される学生へのアンケート実施であったため、当面は同内容のアンケートを実施し、経年分析により実態の把握を行う。</p>		
<p>●学生の自己評価を実施しているか。 【各約300字】</p>	<p>「授業改善アンケート」での2つの調査項目、「あなたは講義を熱心に受講したと思いますか」、「この授業で新しい知識や考え方を得ることはできましたか」によって、本学部に対する学生の評価を授業レベルでみると、回答は前者の「思う（強）+思う（弱）」が69.9%（全学平均63.4%）、後者の「思う（強）+思う（弱）」が84.0%（全学平均73.3%）であり、いずれも全学の平均を上回っている。</p> <p>「明治大学における学びに関するアンケート」では学習成果の自己評価を調査しているが、「入学して、自分自身が成長したか」の項目における肯定的な意見の割合は約81.9%である。このことから、ほとんどの学生は成長を自覚していることが読み取れる。なお問21に関連し、本学部のDPに定める具体的到達目標として定める「異文化を理解する知識」「国際的課題に関する知識」「外国語の運用能力」の各項目についてみると、「身についた」の割合が90%近い数値であった。 また国際日本学部では卒業予定者を対象としたアンケートを実施しており、その中で学部の理念・目的の達成度について調査している。2015年度の同アンケートでは、DPで示している5項目の達成度を調査した。「身についた」という肯定的回答の占める率は5項目の平均で82.6%だった。</p>					

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(2) 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか</b>					
a ◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。  ◎（研究科）学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】	卒業要件については、学則に定める期間在学し、科目群ごとの所定の条件を満たし、124単位以上修得することを、学部便覧や毎年度配布するシラバスに明示している。これに比べ、毎年度4月に開催している学年別ガイダンスで学生に周知している。さらに、4年次12月には卒業ガイダンスを2回開催し、卒業要件を再度確認させるようにしている。また2013年度以降の入学学生については、早期卒業制度について、当該学年の学部便覧で説明するとともに、4月の学年別ガイダンスで周知している。				
b ●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】	学位授与にあたっての責任体制と手続については、「卒業判定処理フロー」（2016年12月16日教授会承認）に基づき、2月下旬の執行部会議及び教授会で不合格者の審議を行い、当該学生に成績照会期間を設けた後、3月開催の執行部会議及び教授会で厳正に卒業判定を実施している。 早期卒業については、学部内で内規を定め、内規に則して当該学生が成績優秀者かどうかを検証し、教授会で承認した上で卒業を認めることとしている。2016年度については希望者1名中1名が早期卒業した。				

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか (「AP」の全文記述は不要です)</b>					
<b>「求める学生像」と「当該課程に入学するにあたり、習得しておくべき知識等の内容・水準」の明示</b>					
a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】	本学部では「教育方法と教育目標」と「入学志願者に定める高校等での学習への取り組み」を明示した入学者受け入れ方針「国際日本学部アドミッションポリシー」を定めている。 入学者の受入方針の公表について「入学試験要項」及び大学ホームページにおいて公開し、受験生を含む社会に幅広く公表している。 なお、一般選抜入試の「出題のねらい」で、各教科（英語、国語、日本史B、世界史B、政治・経済）ごとに求める具体的な知識等の内容・水準を示し、学部ホームページで公表している。				
<b>(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか</b>					
a ●学生の受け入れ方針と入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。(公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。 【約800字】	入学者の受入方針に基づき、学生募集は入学者選抜方法ごとに9方式で行っている。一般入試として、「一般選抜入学試験」「大学入試センター試験利用入学試験」「全学部統一入学試験」を実施している。 推薦入試として「付属高校推薦入学試験」「指定校入学試験」を行っている。 特別入試としては、「外国人留学生入学試験」「海外就学者特別入学試験」「スポーツ特別入学試験」を採用している。 また、2017年度入学試験からは、従来外国人留学生入学試験の中で実施していたイングリッシュ・トラック入試を改め、国籍要件を撤廃して日本国籍の学生も受験できる「国際日本学部イングリッシュ・トラック入学試験」を導入した。この入試は、4月入学者対象の入試に加え、9月入学者対象の入試も行っている。				

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか</b>						
<b>収容定員に対する在籍学生数比率の適切性</b>						
a ◎学部・学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である。 ◎学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である。 ◎学部・学科における編入学定員に対する編入学生数比率が1.00である（学士課程）。 【約200字】	過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の学部平均は1.14となっている。なお、昨年度時点の過去5年間の学部平均は1.11であった。 2017年度の収容定員は4学年で1400名、在籍学生数は1,738名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は1.24である。ただし、在籍学生数のうち65名は交換留学生のため、それを除くと在籍学生数は1,673名となり、在籍学生数比率は1.20である。 外国人留学生の入学者は2017年度においては402名入学者中34名となっており留学生の割合は11.6%となっている。なお、昨年度時点での留学生の割合は8.5%であった。 イングリッシュ・トラック編入学試験により、2年次に2名、3年次に2名が入学した。		入学定員に対する超過率を僅かに超過する結果となった。 入学定員厳格化の状況から上位大学が合格数を絞ったことにより、本学部の歩留まり率に影響が出たと思われる。		定員管理をより厳格に行い合格者数を決定する。	過年度の歩留まりデータに基づき、本学部への出願志望に関するデータや情報を収集の上で合格者数を決定する。
<b>定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応</b>						
b ◎現状と対応状況 【約200字】	収容定員に対する在籍学生数比率は1.24であるが、2017年度入試では350名の定員に対し、入学者は415名（2016年秋入学者含む）で、その比率は1.19となっており、全体の比率より低い数値となっている。また、在籍学生数には短期間在籍する海外からの交換留学生65名を含んでおり、当該学生数を除くと、収容定員に対する在籍学生数比率は1.20となる。					

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか</b>						
a ●学生の受け入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【400字】	入学者の受け入れ方針は、本学部内の「入試委員会」にて毎年検証し、それに基づき学生募集及び入学者選抜の方法を見直している。入試委員会で承認した素案は教授会上程され、審議・承認している。 入学試験制度についても同様に、本学部内の「入試委員会」で、方法、科目、配点等を毎年度検証している他、学生のGPAを入試形態別に調査し、次年度の指定校等の推薦入試、特別入試のあり方を検討している。 2016年度においては、従来外国人留学生のみ受験できたイングリッシュ・トラック入学試験を改め、国籍要件を撤廃して日本国籍の学生も受験できる特別試験「国際日本学部イングリッシュ・トラック入学試験」を実施した。また、2018年度入試（2017年度実施）から海外就学者特別入試を廃止することを決定している。 この他、2018年度入試から一般選抜入学試験における外部英語検定試験を活用することについて、教授会で決定した。 なお、「明治大学における学びに関するアンケート」では、入学者の志望度を調査しており、本学の志望順位第三志望以下が約22.9%という数値だった。また、同アンケートにて「志望していた学部・学科（学びたいと考えていた分野の学部・学科）に入学できましたか。」という問いに対して、97.6%の学生が「はい」と回答している。以上のことから、不本意入学者は少ないことがわかる。 入試形態別の追跡調査については、「入試委員会」において本学部で実施している各入学形態別のGPA平均値調査を行い、指定校入試における指定校選定の参考資料としている。	アンケート結果からも分かる通り不本意入学者は少なく、学生の受入に関する一連の流れは十分に機能している。		入試委員会及び執行部で、継続的に入試制度を検証し、受け入れ方針に則した学生をより多く獲得できるようにする。		

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか</b>						
a ●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約2000字】	修学支援方針は「国際日本学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年6月作成)において、「学生が大学生生活を充実させられるよう、学生生活全般の支援や環境整備、留学生、障がいのある学生のサポートを含むきめ細かい修学支援、学生の経済的負担を軽減し勉学に集中できる環境を整えるための奨学金制度、学生の能力や特性を生かすことのできる進路や職業を選択してもらうための就職キャリア支援をより一層充実させること」と定めている。 周知について、年度計画書を承認することにより、教授会員は周知・共有できている。 修学支援については学部便覧で公表することで教職員に周知をしている。					
b ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約4000字～8000字程度】	休退学者等の学籍異動については教授会にて報告し、情報を共有している。2016年度は「在籍原級者」は27人(前年度32人)、「休学者」は115人(前年度76人)、「退学者」は10人(前年度9人)である。なお、本学部の休学者の多くは海外留学、海外インターンシップ等を目的としている。 海外地域指定校推薦入試による入学者に対して「英語」・「国語」に関する課題を課している。英語の課題については過去の入試問題を課題にし、国語(日本語)については課題図書及びeラーニングの実施を課し、学習意欲・語学力向上を目指している。 学部国際交流委員会下部組織として位置付けている国際交流学生委員会では学部学生が相談会・歓迎行事を企画し、学習・生活相談をはじめ交流会の開催等、様々な面から外国人留学生をサポートしている。	渡日前の留学生への事前学習支援について、引き続き入学前の留学生に対し教員が定期的に課題添削を実施し、渡日前教育の継続的な支援を行う体制を整えている。 また、留学生を多く抱える本学部においてはその相談内容もさまざまである。英語で対応できるネイティブの学生相談員を1名増員したことで学部全体では隠れてしまうような些細な悩みを吸収することができる。 国際交流学生委員会による新入生相談会の開催は、留学生をサポートしたいという新入生に委員会の活動を知ってもらうよい機会であり、学生が主体となって外国人留学生をサポートをしていく体制の強化につながっている。		継続的な渡日前の学習支援体制及び外国人留学生を支える体制をより強化していく。		
	障がいのある学生に対する修学支援については、その障がいの内容を鑑みて対応している。今年度においては、当該学生が履修している授業担当者に、その障がいの説明と対応例を事前に周知し、学生・教員双方が円滑に授業に臨めるようにしている。					



# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	<p>学部内の「国際交流学生委員会」および「イングリッシュ・トラックのクラス担任」がさらにきめ細かく対応することとしている。具体的には、国際交流学生委員会の学生が、イングリッシュ・トラックにて入学した留学生に対して大学内だけでなく生活面でのサポートを行っている。また、渡日前の留学生で、高校卒業から4月入学までにかかりの時間が空いてしまう学生からの要望を受け、入学前に学習できる課題を作成し、事前学習支援を実施した。</p> <p>また、留学生を含め新生に対して国際交流学生委員会のメンバーが相談に応じる新生相談会を4月に実施した。</p> <p>学生支援体制の強化として、外国人留学生を含む様々な学生からの相談に応えるため、本学部の教員の学生相談員を2015年度より2名体制に増員し、学生相談室における支援を拡充する体制を整えた。</p>					
	<p>学生支援の適切性の検証プロセスについては、修学指導対象となった学生の修学状況や成績の推移を学期ごとに「執行部」で確認しているほか、学生によるゼミナール協議会、および国際交流学生委員会の活動支援を通じて、学生からの要望を反映する仕組みとしている。</p>	<p>全学の認知度が46.2%であり、他学部と比べて認知度は高い。</p> <p>入試広報に加え、入学後のガイダンスや初年次に行う国際日本学部講座により、国際日本学に関する共通認識及び本学部のポリシーの意識付に効果が表れている。</p>				

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(2) 進路支援に関する方針を定め、学生への支援は適切に行われているか。</b>					
a ●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	進路支援方針は「国際日本学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年6月作成)において、「学生が将来展望を描き、それに基づいて、将来設計を考えることについて支援すること」と定めている。 周知については、年度計画書を承認することにより、教授会員は周知・共有できている。 進路支援については学部便覧で公表することで教職員に周知をしている。				
b ◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】	学生のキャリア支援に関しては、学部内に「キャリア形成委員会」を設置し、就職キャリアセンターや中野教育研究支援事務室(就職キャリア支援担当)と連携して、きめ細かく各種支援行事をおこなっている。4月には全学年のガイダンスにおいて、就職支援及びキャリアデザインについて説明するとともに、学部のゼミナールごとの説明会等も実施している。 また、本学部は、外国人留学生が多く在籍することもあり、ゼミナール協議会と連携しながら、学部独自に以下のようなキャリアイベントをおこなった。 ①4年生対象の就職支援講座(6月実施。ゼミナール協議会主催) ②3年生対象のプレ就職・進路ガイダンス(7月実施) ③4年留学生対象就職活動支援面談(7月から12月にかけて順次、必要に応じて実施)  また、イングリッシュトラック学生向けに、中野教育研究支援事務室(就職キャリア支援担当)と連携して、3年生対象キャリアガイダンスを2017年2月に実施し、同様に1年から3年を対象とした就職説明会を2017年4月に実施した。なお両イベントともに英語の話せる外部講師により実施された。	2016年度の卒業生の内就職率は88.1%となっており、他学部と比べても遜色ない達成率だった。就職先としては、昨年度に引き続き「外資系企業」、「海外展開をする日系企業」、旅行・航空、情報通信関係など、語学力や国際感覚を求められる企業への就職が多くみられ、学部の目指す人材育成像に合致した人材を多く輩出している。 また、新たなインターンシップ留学プログラムの開拓により、昨年とほぼ同数の学生を海外インターンシップに参加させることができている。	就職・進学率の向上を課題として、今後も従来のキャリア支援を行っていくと同時に、留学生、特にイングリッシュトラック学生のキャリア支援についてサポートを強化していく。		

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	<p>本学部のキャリア支援活動については、自由選択科目の「学部間共通総合講座」にて、本学部専任教員がコーディネーターとなり、キャリア支援講座を開講している。</p> <p>また、本学部では、留学プログラムの中にインターンシッププログラムを組み込んでおり、その実績が基準を満たしている場合は単位認定を行っている。具体的にはフロリダ州立大学とハワイ大学と提携してプログラムを組んでおり、特にフロリダ州立大学とのプログラムは、学部開設以来学生から人気を博している。2016年度にはこの2つのインターンシッププログラムに50名の学生が参加した。</p> <p>2017年度から上記に加え国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部との国際ボランティアプロジェクト及び海外インターンシッププログラムへの学生派遣に関する覚書の締結（2017年3月）を行い2017年度から実施予定である。</p>					
	<p>「明治大学における学びに関するアンケート」問27において、キャリア教育・キャリア支援に関する調査を行っており、その結果、学生が満足している内容としては「学部間共通総合講座におけるキャリア支援講座」「教員による助言」であった。特に教員による助言については、ゼミを推奨している本学部の特性上、ゼミの指導教官から助言・アドバイスを得ていることが読み取れる。</p> <p>また、卒業予定者アンケートにおいて、就職活動の中で国際日本学部で在学したことでアピールできた能力について調査したところ、「語学力」が22.3%、「コミュニケーション能力」が20.6%、「チャレンジ精神」が14.7%であった。</p>					

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか</b>						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること。 【約400字】	<p>本学部における自己点検・評価は、学部執行部および学部内に設置された「国際日本学部FD・自己点検・評価委員会」によって毎年度行われている。同委員会は学部執行部メンバーを委員長とし、他5名の専任教員の全6名で構成されている。教育研究および学内業務の経験の豊富なベテラン教員等が、その経験を活かし、報告書作成を学部執行部と連携して行っている。</p> <p>2016年度は委員会を2回開催し、自己点検・評価報告書の原案を点検した。同報告書は2016年9月30日開催の教授会で審議に付し、その後全学の手続きを経て本学ホームページで公開している。</p> <p>自己点検・評価にあたり、「授業改善のためのアンケート」、「明治大学学びのためのアンケート」、「明治大学データ集」そして「卒業予定者アンケート」などが有効な手がかりとして活用されている。特に「卒業予定者アンケート」では、DPで示した能力が身についたかどうかを卒業予定者に調査しており、本学部の自己点検を行う上で有用なデータとなっている。</p> <p>自己点検・評価の結果は学部執行部にフィードバックされ、学部教育の改善に活かしやすい態勢が構築されている（執行部メンバーの一部は将来構想・カリキュラム検討委員会や入試委員会等、各種学部内委員会の委員長等を兼ねている）。それらの意見を集約し、執行部で作成した「国際日本学部の総括と展開」を次年度の教授会で教授会員に公開し、意見聴取した上で、学部の今後の方向性を決定している。</p>	<p>本学部では、自己点検・評価報告書の教授会での承認→執行部作成の「国際日本学部の総括と展開」の承認というプロセスを行うことでPDCAサイクルを構築している。</p> <p>本学部における内部質保証のためのPDCAサイクルは円滑に行われており、その結果についても、社会に向けて適切に公表されている。</p> <p>2015年度の総括では海外留学制度の課題（高額授業料・英語圏以外での学生交換）が挙げられたことに対し、コミュニケーション、有給インターンシップの開拓及びスウェーデンの諸大学との協定が展開された。</p>		引き続き同様の体制で実施していく。		
<b>(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか</b>						
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること	<p>本学部の内部質保証の基本方針は、学部長以下の「学部執行部」、及び「FD・自己点検・評価委員会」を責任主体とし、両者が評価結果及び改善点を検討・整理し、学部長に報告するものとしている。また教育活動への反映に関しては、学部長の決定した方針に基づき、学部内各種委員会（将来構想・カリキュラム運営委員会、入試委員会、国際交流委員会、人事委員会、イングリッシュ・トラック運営委員会、広報委員会等）が改善案を作り、教授会の議を経て年度計画書に反映させることで、学部全体の内部質保証の仕組みを構築している。</p>	<p>カリキュラムの見直しについては、学部長からの検討依頼を受けて「将来構想・カリキュラム検討委員会」で必ず精査され、その結果を教授会で審議しており、明確なプロセスにより機能している。</p> <p>2016年度においても「2017年度新時間割導入に伴う科目名・配当年次変更」「カリキュラム・ディプロマポリシーの見直し」「新設科目設置」等が実施されていることから内部質保証システムは適切に機能していると判断できる。</p>		引き続き現在の内部質保証システムを継続していくとともに、今後本学部にも適用される「改善アクションプラン」の内容にも取り組んでいく。		

# 2016年度 国際日本学部 自己点検・評価報告書

## 基準10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  G列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること	2015年度の自己点検・評価報告書で改善を要すると報告されていた、授業アンケート実施率の課題については、全学的に改善計画が明示された。					
●学外者の意見を取り入れていること	学外者の意見の取り入れについて、本学部では外部の方の意見を聴取し検討する仕組みは作っていない。					